



文学のふるさと

その28 一天草町一



十三仏公園景勝

—与謝野寛・晶子歌集—

天草の十三仏のやまに見る

海の入目とむらさきの波 (寛)

天草の西高浜の志ろき磯

江蘇省より秋風ぞふく (晶子)

押しよせる波に向って立っている、晶子

のこのスケールの大きな歌が実感をもってせ

まってくる。与謝野夫妻が揃って天草にやっ

てきたのは昭和八年の秋のことだった。この

旅行は夫婦に強い印象を与え、とくに高浜の

白鶴ヶ浜のたなすまいはいくつもの歌にいま

まれている。近くに下田温泉がある。西海岸で

たった一つの出湯の漁村。東シナ海が一望の

もとに広がり、天気の良い日は上海の灯がみ

えるという。

わたしの郷土

富合小学校 六年

伊藤 修



多くの生まれ育っている富合町は、人口が約八千五百人で、耕地面積は、九百ヘクタールのたいへん豊かな町です。有名な所としては、日本三大不動の一つ木原不動尊と、雁回山、そして、六殿宮と三つあります。その中でも、六殿宮が一番有名です。この六殿宮は、今から八百年前、高倉天皇の命で、この辺りの村の人達の生活がよくなり、作物が実るように建てられたお宮です。たくさんのお祭りがあるの御殿が大きい、一番うしろの御殿は、九州で一番横はばが広いそうです。三百年位前までは、富合だけでなく宇土郡下益城を含めた広い地域の神様としてみんながおまつりしたお宮でした。また、このお宮には、桜門があり、釘を一本も使わずに組み合わせて作ってあるので、釘なしの門とも呼ばれています。

ぼくらの町、富合

明治四十年には、日本の中で最もすぐれた建物であり、国の宝として指定され大切に保存するように定められました。

お祭りとしては、十月九日の秋の大祭があります。有名なのは、馬追いとやぶさめで

す。やぶさめの行事は、富合町の氏子の人達が、この裏山の雁回山にいた鎮西八郎為朝をし

のんで始まったといわれる伝統行事で、毎年、毎年、十七部落の人たちが交替してつとめています。又、ぼくたちがお神楽をまいます。

これも、木原の人たちが代々伝えてきたものです。このように、六殿宮を中心にして、何百年も前から町中の人達が、お祭りを守ってきま

した。今からずっとぼくたちの手で守っていきたくと思っています。これから先、この富合町も近代化していくと思いますが、文化財などをしっかり守って行

きたいと思っています。